

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400073
法人名	株 だんだん
事業所名	グループホーム つるかめ
所在地	西予市野村町野村2-109-1
自己評価作成日	平成28年11月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が職員とともに作っていく安心して過ごし日常生活を送れるように支援しています。役割を持ち生き生きとした生活を送るよう支援します。  
施設周辺は自然があり、のんびりした落ち着いた場所です。地域の方との関わりも多く、その環境を大切にしながら生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

常会時や回覧板で地域の情報を得ている。地域で実施する、「クリーン作戦」の折には、利用者と一緒に参加して草刈り後の草の撤去作業を行った。散歩を通して地域の方と顔見知りになっており、「顔を見ないけど元気ですか」とか「一人で歩かれていますよ」と、声をかけてもらうことがある。隣接するデイサービスのスペースで、2ヶ月に一度認知症カフェ「オレンジ倶楽部」を行っている。  
近所を散歩したり、玄関前のベンチで過ごしたりしている。大型車を整備したことで外出の機会が増えている。大勢で出かける際には、複数台で行き、利用者の状況を踏まえて、ゆっくり過ごす方、早く帰りたい方で別られるよう支援している。紅葉を見に行ったり、誕生会をホワイトファームで行ったこともある。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目: 28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム つるかめ

(ユニット名) つる

記入者(管理者)

氏名 古田 康子

評価完了日 平成28年 11月 18日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念に基づき家庭的な環境の下で利用者が役割を持ち利用者が自ら選択でき安心した生活を送れるように支援します。地域との交流を図り、地域に根ざした事務所を目指し、地域の方々とのふれあい・あいさつを心掛けている。 (外部評価) 「利用者と職員が共に作っていく、落ち着いたあるきちんとした日常生活を大切にします」「自分の生活を利用者自ら選択し、作っていく生活を支援します」という理念を玄関スペースに掲示している。毎月職員と話し合い、ユニットごとに月目標を作り、取り組みをすすめている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の方々とのあいさつ・ふれあいがある。外出の折には、近所・地域の方々から自ら声かけしている。また、地域の方々からも暖かく見守ってもらえる (外部評価) 常会時や回覧板で地域の情報を得ている。地域で実施する、「クリーン作戦」の折には、利用者と一緒に参加して草刈り後の草の撤去作業を行った。散歩を通して地域の方と顔見知りになっており、「顔を見ないけど元気ですか」とか「一人で歩かれていますよ」と、声をかけてもらうことがある。隣接するデイサービスのスペースで、2ヶ月に一度認知症カフェ「オレンジ倶楽部」を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々の中には、認知症に対して深く理解のある方が多く助言や思いやりを持って接して頂いている。地域の行事にも参加できる環境にある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)  利用者の日々の報告・イベント等実施報告。災害時には避難救助の依頼相談や救助のマニュアル作成の意見を伺っています。協力体制の強化を目指したい。	地域の方の参加を増やせるように、働きかけを工夫してほしい。さらに、メンバーからいろいろな意見が出るように、会議のすすめ方についても工夫を重ねてほしい。会議を活かして人や場とのつながりを広げてほしい。
			(外部評価)  会議時には、事業所の様子やヒヤリ・ハット報告を行っている。家族は、1名の方をお願いして参加協力をしてもらっている。地域の方にも依頼するが、「そんなのはええわ」と言われ参加につながっていない。9・3月は、隣接デイサービスと合同で運営推進会議を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)  キントーンで常に情報を得ています。また、相談も行いやすい環境にあると思います。運営推進会議や研修会・連絡会にも参加しています。	
			(外部評価)  コミュニケーションツール「キントーン」を活用しており、毎日確認して情報収集したり、情報提供している。運営推進会議時には、市の担当者から安全対策のマニュアルの見直しについてアドバイスがあった。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)  施錠等に確認しています。また、研修会等で拘束しない介護に心がけています。利用者の意志を尊重し意欲的に動けるように施錠していない。	
			(外部評価)  ひとりで出かける利用者には、職員がそと後から付いて行き、見守り支援している。職員は、「ダメ」等の言葉の拘束についても気を付けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  他の利用者に暴言などあるが、職員が間に入り、納得されるまで話を聞き落ち着いて頂く介助をする。職員でも虐待については申し送り等で話し合いを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  利用者の認知の余り進行しない判断力のある時期から職員は家族や本人の有利になるような制度を学び基礎知識位を身に着け活用出来るよう学習している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  ご本人を中心にし家族様にも当施設の方針や方向性を十分に理解し納得出来るよう説明し理解出来、受け入れの出来体制まで説明をしてゆく	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  各月、及び緊急に際してはその都度に全体及び各ユニットで検討会を持ち家族意見を反映出来るようにしている。面会時などには家族様の説明を十分に理解できているかも察し利用者様の情報をお伝えしながら方向性も見つけるようにしている。  (外部評価)  家族には、来訪時や毎月発行する事業所便りで利用者の状況を報告している。家族に、利用者の食事の様子を見てもらえるように、家族の来訪時には、食事やおやつを一緒にできるよう誘っている。又、年1回の家族会時は、ゲームをして一緒に遊んだり、夕食を一緒にとったりできるよう計画している。遠方に住む家族には、メールや電話でやりとりをしている。	事業所のことをさらに知ってもらえるように、運営推進会議の内容や事業所が特に力を入れて取り組んでいること、職員の紹介やケアの事例等についても報告してはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月開催する職員会や研修会などを活用し問題や意見があれば解決に向けた意見や情報の交換を行う。	
			(外部評価)	
			職員からの意見は、職員間で検討して採り入れている。外部研修後には、レポートを作成し、毎月の職員会議時に報告して共有している。福祉用具の研修後には、事業所内で実技講習を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			勤務の日程等においても職員の希望を聞き勤務スケジュールを作成し、急ぎの体調不良や家族の緊急時には早期の相談と対応を受けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			地域、組織などの研修会には参加し研修の実務など得た習得技術など実践を交えて全職員に発表し実践し介護に生かせるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			県や地域開催の研修会には本人の希望と自主性を生かし受講している。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			不安の多いと想定される入所時は施設生活に慣れて頂くため会話や観察でADLの出来ない事を会話を通して理解し自立出来る生活の支援をする機会を作る。危険な項目には毎日の情報の共有が必要である。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) どんな事でも耳を傾け、聞いたことに対して丁寧に問題解決に向け利用者や家族と向かい合う姿勢を示し、少しずつ前向きな解決と信頼関係を積み重ねるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族との会話の中から出た不安を安心に変えるよう、どんな支援が必要かを職員間で検討しながら本人家族の要望に合う支援をする。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の心身の負担が軽減できるよう、声掛けやアイコンタクトをとり家族の気持を持って支援し、利用者に信頼してもらえるよう声掛けしてゆく。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) どんな事でも心を開いて話を聴き利用者の理解と要望をかなえるような支援を考えている。面会や外出などで家族の絆を感じたり家族の思いを伝える機会に協力している。電話や写真などの情報も活用している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 記憶の中で大切な物や自然と人とのつながりと大切にし屋外でも食事や季節ごとの外出で昔の思い出に触れて頂く機会を作っています。	
			(外部評価) 生家に行くことを支援したり、家族の帰省に合わせて、自宅にお連れしたりしている。乙亥相撲は、以前から見に行っていた方が多く、年間行事に採り入れ支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	各ユニットを自由に行き来している。誕生日会や訪問ボランティアなどは合同で楽しめる。誕生会では職員が考案したゲーム等で利用者と一緒にいき信頼関係も出来ている。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	退所されても新しい施設を訪問したり家族や本人に役立つ情報を必要に応じて提供している。面会時には記憶が無くても心が通うとお互いの喜びになる。
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	利用者の自ら選択できる状況を作り声掛けや要望を常に解決に向けて対応できるように努めている。
			(外部評価)	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	家族関係者や友人に相談したり、居室に馴染みの写真や家具を備え昔馴染みの環境を出来るようにしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	残存能力の活用や回復に向けてのリハビリで体力の現状維持と生活能力や精神面での安定に努め寂しさや不安を軽減するよう支援している。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎月定期的に利用者に対してのモニタリングと緊急時のカンファレンスや意見交換を実施、プランに必要な支援の家族の意見や要望を十分に聞き本人の現状を細かく検討し共有に計画に反映している。</p> <p>(外部評価) 家族来訪時に要望や意見を聞いているが、「今のままで」「お任せします」と言われることが多い。「日々の記録」には、介護計画と支援内容を記載し、毎日モニタリングを行っている。管理者は、1ヶ月ごとに経過記録にまとめ、半年ごとの計画見直しにつなげている。</p>	<p>本人の思いや意向、暮らし方が反映された介護計画作りに取り組んでほしい。又、本人の支え手として、家族等や地域の人たちとの協力体制等も盛り込めるよう、工夫してほしい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 毎日の介護の実践やプランの達成を日々に記録し申し送りなどでも共有に心掛けている。突発的な発生事項においても別紙に記録し全員で共有し検討したり活用出来るようにしている</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人の要望を重視しその場で対応できか出来ないかを見極めながら実践したり対応の検討で情報を確実に伝達する。時間的に対応できることはタイミングを取りながら対応し検討と実行を行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地方祭に参加したり訪問を受けたり、近隣の方の差し入れやお話しを楽しむ。地域は農家が多く野菜なども頂く。学校帰りの子供の訪問もあります。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 月1回の定期受診で健康管理と担当医の助言や服薬の提供で健康管理が安心出来る。体調の急変にも対応してもらい家族からも信頼されている。	
			(外部評価) 通院時には、医師からの説明等を家族も一緒に聞けるように支援している。家族が受診に付き添う場合は、利用者の日頃の状態を家族に報告し、又、受診内容を聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 担当看護師より利用者の体調の情報を医者と連絡いただき体調が安定、常時に看護師と情報の共有もあり利用者個人の健康と安定が保られている。看護師による変調時のアドバイス対応にも対応あり。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には職員の面会や利用者の観察情報など常に利用者の身体状況が把握できる。又、医者、看護師による連携体制で病状の進行や安定の情報が得られる。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 健康時から利用者との会話から重度になった時の話も得るようにしている。医者からの重度になった時の情報で終末期についての家族の説明と支援に付き納得のいく支援に取り組んでいる。家族の支援体制についてもいつでも相談に入っている。	
			(外部評価) 利用契約時、事業所の方針を説明している。状態変化時には、医師も交えて家族と話し合い方針を共有している。事業所で看取り支援を行った際には、職員の勉強会や話し合いを重ねながら支援した。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  消防署の職員により緊急時の救急救命の実施訓練を定期的に受講し看護師による医療に向けての研修を実施している。緊急連絡網の準備も出来ている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  日常、近隣の住民には協力の依頼をしている。地震や火災においては消防士により定期的に火災避難訓練の実施も全利用者、職員、近隣者で行う。自然災害においても避難場所の明確化もしている。  (外部評価)  年2回、火災想定避難訓練を行っている。消防署の協力を得て日中・夜間想定訓練を行っており、さらに、地震時のDVDの視聴や講和がある。年1回は、地震想定自主避難訓練を行っている。運営推進会議時には、区長から、地域の協力マニュアル作成について意見があり、災害時の地域の役割について検討している。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  尊敬の精神を持ち心からの介助と、共に生きていく生活を維持出来るよう理念に基いた支援に心掛けている。  (外部評価)  居室の入り口には暖簾を掛けて、室内がまる見えにならないように配慮している。調査訪問時、居室を見せてもらう際には利用者に確認していた。利用者が聞かれないだろうと思われる内容については、皆から離れた場所で話すよう気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  自分の気持を大切に無理なく生活できる環境を個別に作るよう日頃の発言にも傾聴するようにして自分で決定出来る環境を作るように心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 家庭的な環境や自分らしい生活の流れ、趣味などを生かせる環境作りをし一日が充実できるよう希望や体調に準じて支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時の衣類の選択には本人の希望を出来るだけ叶えるよう、お洒落や趣味を日常はから把握に努める。家族からの情報の交換で個人の趣味、特徴を聞いておく。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 過去の職業や自立的な生活能力に応じて男女差なく家事など出来る事を依頼する、調理などは野菜の準備や食器拭きなどで楽しく仕事をして頂き、感謝の言葉も忘れないようにしている。 (外部評価) 献立は、冷蔵庫にあるものを利用者に伝え、その都度決めていいる。食材は定期的に配達してもらっており、足りないものは買い出しに行っている。本人のペースで食事ができるように、職員も着席してゆっくり過ごすようにしている。「口から食べる支援を成功させるコツ」の研修を受け、現在ミキサー食の利用者について、ミキサー食と普通食を準備して、献立によってミキサーにかけるかどうか見極めたうえで支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎月のカンファレンス、体重測定、摂食量と健康の目安に変化のある方は特別食の提供等を検討し体調、精神面での安定と向上を目視しているが病気の障害で困難な事もある。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る方、一部出来る方など個人を見極めながら出来ない事は支援している。意思疎通の出来ない方は職員の介助と口腔内の異常の早期発見につなげる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	利用者の行動を見極めて排泄の有無を判断する方は誘導と介助、尿意の有無を行動で見極める情報を共有しながら気持ち良く排泄出来る支援、トイレと言う特別な場所で自尊心を大切にしていく。	
			(外部評価)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	食事内容には排泄誘導の食事を提供できるよう、オリゴ糖入りヨーグルトの配膳する。体を動かす様に体操や歩行、散歩の介助や声掛けし薬の対応を望まない。	
			(外部評価)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	希望日の要望が言える方はその日に入浴する。週2回の入浴できる調整が必要になる。拒否される方もあり健康維持の必要な話などを説明したり状況により入浴日に変化する事もある。健康と自己の要望は臨機応変あり。	
			(外部評価)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	日中は出来るだけ活動し廊下歩きや活動を進め心身のリフレッシュを支援する。大声で歌う、風船バレーなどで大声で笑うなどの提供。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の記録簿の前に目につくよう服薬情報を付け薬の効能や服薬時間の明記を理解し誤薬等が発生しないように確認と体調の変化に留意している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)  個性を重視しながら利用者の生活を自ら選ぶ事が出来、過去の生活歴を生かせるよう職業等で培った特技を(野菜づくり、手芸)活かさせ生き甲斐を見つけるお手伝いをする。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)  季節を見て頂くよう季節により行く先は変わっていく。行き先々の場所で外食や弁当の美味しさは外出の醍醐味でもある。  (外部評価)  近所を散歩したり、玄関前のベンチで過ごしたりしている。大型車を整備したことで外出の機会が増えている。大勢で出かける際には、複数台で行き、利用者の状況を踏まえて、ゆっくり過ごす方、早く帰りたい方で別られるよう支援している。紅葉を見に行ったり、誕生会をホワイトファームで行ったこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)  管理出来る方は外出支援するが、出来ない方は希望等を家族に連絡して購入支援する、家族との協力支援は本人にとってはこの上ない喜び。金銭管理が出来ない方は職員の支援あり。利用者の個性や用途を発見できる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)  本人の希望が無くても家族とのコミュニケーションには電話を使い自室で会話を楽しんで頂く、子供や孫の声で家族ほど良いものはないと感じます。文字の理解できる方は手紙でも受け取った時の感動はしひとしおのようです。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>季節ごとに壁に折り紙、貼り絵、切り絵等と作り貼っています。季節感のあるお正月、桜の飾り等で季節の変化を見つけたり、テーブルの配置を変えたりもして外の季節感も味わっていただいています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関前は屋根付きでベンチを置いている。玄関入ってすぐにもテーブルとイスを配置しており、畳コーナーもある。カメラやメダカを飼っており、じっくり観察する利用者がある。利用者の写真を大きく引き伸ばして壁に掲示していた。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ソファや椅子に自由に座り窓辺の様子を眺めたりして、飽きたらTVや居眠りされる。体調の変化や生活能力、歩行状態も観察出来る。誰もが自由に行動されています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居時にも家族の聞き取りなどで生活環境を考慮したうえで家族や本人と相談しながら持ち込み家具、電化製品の配置をし安楽に生活できる空間を作っています。途中で配置の交換もありますが安全第一になります。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入りロドアは3枚戸で、どちらからも開閉できる。片方に、利用者の名前を貼っている。ベットや大きめのタンスが備え付けてある。ベット横にカラーボックスを置き、化粧品を収納している方がいる。転倒が気になる利用者には、夜間のみベッド足元に人感センサーマットを設置している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の能力と個性を生かし安全に生活できる様支援、趣味趣向に合った個性ある自立支援と地域交流で落ち着いて生活して頂きたい。</p>	